

第4回 青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会 議事録

日時：令和5年3月17日（金）15：00～16：20

場所：仙台市役所2階 第一委員会室

〈出席者〉

【委員】

宮原育子座長、榊原進座長代理、姥浦道生委員、紫富田薫委員、庄子真岐委員、高山秀樹委員、深澤百合子委員、藻谷浩介委員 以上8名（委員五十音順）

（※）下線を付した委員はウェブ参加

【仙台市】

金子文化観光局長、高島文化観光局次長、中山文化観光局次長（音楽ホール整備推進担当）、奥山観光交流部長、大森文化スポーツ部長、市川交流企画課長、神倉交流企画課主幹兼庶務係長、田中震災メモリアル事業担当課長、日下観光課長、川口企画調整担当課長、佐々木文化企画推進担当課長、川崎公園整備課青葉山公園整備室長、都丸文化財課長

〈議事等要旨〉

1 開会

- ・ 議事録署名委員について榊原委員に依頼→榊原委員了承

2 議事

（1）「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」最終案について

宮原座長： それでは議事に入ります。「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」最終案について、事務局からご報告をいただきたいと思います。

文化企画推進担当課長： 文化振興課の佐々木と申します。資料1に基づき、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点複合施設についてご説明します。この複合施設の懇話会については、去る1月29日に第3回懇話会を開催しまして、ホールとメモリアルの施設概要、青葉山エリアに立地する施設としての在り方について意見交換を実施しました。懇話会でいただいた主なご意見は記載のとおりで、各施設の施設概要やエリアに立地する施設の在り方について、様々なご意見をいただいたところです。青葉山エリアに立地する施設としての在り方というところで、青葉山での景観の一体性を守って欲しいというご意見や、MICEに関しては、文化芸術や災害文化を発信するいい機会と捉え、この複合施設で開催するということについて事業構想等に組み込んでいくとよいのではないかとご意見、また、飲食施設が不足しているためキッチンカーなどの柔軟な受け入れ体制を望む、などのご意見をいただいたところです。複合施設の懇話会については来週の月曜日、3月20日に4回目の懇話会を開催し、そこでいただいたご意見を踏まえて中間案を作成し、パブリックコメントを経た後に、本年夏ごろに基本構想の策定を目指して検討を進めてまいります。資料1の説明は以上です。

宮原座長： 資料1に基づいて、国際センター駅北地区の複合施設基本構想に関する懇話会の概要をご紹介します。この件について皆様からご質問やご意見はございますか。

よろしいですか。

続きまして資料2～資料5について事務局からご説明をお願いします。

交流企画課長： それでは私からご説明します。

はじめに資料2をご覧ください。昨年12月23日に開催した前回の懇話会での委員の皆様からの主なご意見をまとめたものです。いただいたご意見については、記載のとおり中間案に反映した上で、パブリックコメントを実施しております。資料2については、パブリックコメントの実施前に委員の皆様にもメールでご提供したものと同一資料ですので、本日の説明は割愛させていただきます。

続きまして、資料3をご覧ください。先ほどの資料2の内容を反映させた内容で実施したパブリックコメントの実施概要です。1月23日から2月22日の1か月間実施し、個人19名、団体は3団体からご意見をいただきました。主な内容は(2)に記載のとおり、「具体的な取り組みに関すること」が10件、「自然環境への配慮に関すること」が5件、「交通アクセスに関すること」が3件、などとなっています。詳細については、資料3別紙にまとめております。資料3別紙は、いただいたご意見の概要と、それに対する仙台市の考え方についてまとめたものです。時間の都合もありますので一部をご紹介します。

「具体的な取り組みに関すること」と分類しているものとして、例えば2番の「青葉山エリアで子どもが楽しく遊べる場所があったらいい」、8番の「能楽堂の建設を進めるべきだ」、13番の「青葉山エリアで飲食が楽しめるような取り組みを期待する」といったご意見が寄せられています。その他のご意見も含めて、青葉山エリアに対する市民の皆様の期待がうかがえる内容であったかと思っています。こういったご意見については、庁内の関連する部署とも共有しており、今後、本ビジョンに関連する取り組みを進める上での参考にさせていただきたいと考えています。

また、本懇話会での議論にもあった「自然環境への配慮に関すること」としては、22番のように「仙台にとってかけがえのない地区であり、にぎわいや集客を優先することで損なわれることがないように注意を払ってほしい」といったご意見をいただきました。豊かな自然は、エリアの重要な特性・価値なので、本ビジョンでは将来像の一つに「杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ」を掲げています。こうした自然に親しみ、大切にすることをビジョンにおいてもお示しすることとしています。

また、「交通アクセスに関すること」としても複数いただいています。主に「車の混雑」に係るご意見がありました。移動環境については、仙台市としても一定の課題があるものと認識しており、取り組みの方向性として、このビジョンの中で「交通渋滞への対応」や「国際センター駅を基点としたアクセスの向上」等を盛り込んでいます。なお、この「ご意見の概要と本市の考え方」については、本日の懇話会での議論を踏まえ、後日本市ホームページにおいて公表することとしています。

資料3に戻り、「3 ビジョン策定に係る今後の予定」についてです。本日の懇話会でのご意見も踏まえ、必要に応じて修正を加え、今月末までに内部の手続きを経て策定することとしています。資料3については以上です。

続きまして、資料4と資料5をご覧ください。本ビジョンの最終案とその概要版です。内容は資料4に沿って説明させていただきます。前回の議論でお示した中間案

から修正した箇所を赤く示しておりますので、その部分を中心にご説明します。

まず7ページの年表をご覧ください。昭和20年の項目を2つ追加しております。一つは、「青葉山地区が緊急開拓委託事業地区に指定」されたことについてです。青葉山エリアの、主に西側の、今、放射光施設が建設されているところや、その南側のゴルフ練習場があるようなところ。その辺りは昭和20年に国が緊急開拓委託事業地区として指定し、開拓のために入植した方々が住んでいた時期がありました。このことについては、先ほどの資料3別紙の3番に記載しているとおり、こうした歴史があったということをご意見いただきました。そうした点も踏まえて掲載したものです。併せて、これまで委員のご発言にもありましたが、仙臺緑彩館のある一帯は、かつて「追廻住宅」という、戦争罹災者のための応急簡易住宅が建設されており、現在は様変わりしておりますが、かつてそういった方々の営みがあったということもこのエリアにとって重要なことと考え、この2点を追記したものです。また、7ページの年表に記載する項目については、これを機に改めて整理をしました。4ページから6ページにかけて記載している「青葉山エリアの歴史」の内容を補足する内容を掲載するほか、他の章で触れている事項に関連する項目について記載するという整理をしています。逆に言うと、ビジョンのどこにも触れていない内容や、本文の補足ともならないような事柄、例えば前回の資料の江戸時代の列にあった「松尾芭蕉、亀岡八幡宮を参詣」については、記載しないことと整理したものです。

10ページをご覧ください。①宮城県美術館、②仙台国際センター、③仙台市博物館について、従前の資料では平成30年度から令和2年度の3年間の実績を掲載していましたが、これを直近の令和3年度を含む3年分のデータに時点修正しました。

11ページをご覧ください。右下のスーパーシティ構想の説明文についても、その記載内容を最新の内容に更新しています。

これらのほか、軽微な文言の修正や、時点修正を行っています。また、表紙の青葉山エリア全体図や、22ページ以降のイメージ図については、大きな変更はありませんが、色味の調整やより細かな描写にするなどの修正をしています。

資料4についてのご説明は以上です。資料5は資料4の主な部分を抜粋し転記したのものになりますので、説明は割愛させていただきます。

なお、紙としての資料はありませんが、本ビジョンについては、本市の市議会からも関心が寄せられています。この2月～3月にかけて開催された仙台市議会第1回定例会においても、ビジョンに関する質問が寄せられました。まだ会議録が確定していませんので、主なものとして2点、口頭で報告させていただきます。

一点目として、「これからのまちづくりには、青葉山エリアが集客装置として国内外から多くの人を惹きつけ、仙台の発展を牽引していくという視点が不可欠であり、これまで以上に観光やMICEなどの機能強化が期待される」という趣旨の質問があり、これに対する答弁として、「ビジョンでは青葉山エリアが本市の観光交流をリードするという将来像を掲げることとしており、エリア内の観光資源に更に磨きをかけていく。また、仙台国際センターを核として、グローバルMICE都市としての機能を更に高めていく」という内容を、文化観光局長よりお答えしています。

もう一点目として、「青葉山エリアに駐車スペースや飲食スペースを設けることで、青葉山エリアを一つのウォークアブルなエリアの拠点としたまちづくりを推進すること

もできるのではないか」という質問に対し、「歩行者を意識した回遊性の向上をエリア内はもとより、都心との間でも図っていく。青葉山エリア内の公共交通機関の利用促進や一定の駐車場の確保、休憩スペースの配置など、主要な施設間の回遊性の向上に向けた環境整備に努めていく」と、高橋副市長よりお答えしています。

資料の説明は以上です。

宮原座長： 資料2～資料5のご説明をいただきました。それから口頭で市議会からのご質問等についても触れていただきました。ただいまのご説明、資料等で、何かご質問、ご意見はございますか。

庄子委員： 非常によくまとめていただき、これをというところはあまりないのですが、驚いたのがパブリックコメントの量です。この前、県の委員会に出ていたのですが、パブリックコメントが0件だったということがあり、それほど注目度が高いのかなと思います。なので、10年後を見据えてということでこのビジョンがあるのですが、このビジョンをすごく思いを込めて作っていますが、定期的に見直すような、作ったあともパブリックコメントを定期的に取りっていくような仕組みが大事なのではないかと思いました。このままでもいいとは思いますが、例えば、30ページの「ビジョンの実現に向けて」に、ビジョンの共有というふうにあります。見直しという言葉がよいかは分かりませんが、定期的な見直しとか定期的な振り返りといった言葉が入ってくると、よりみんなでビジョンを作り上げていく、育てていくというようなことが打ち出せるのではないかと思います。

宮原座長： ありがとうございます。貴重なご意見だったと思います。他にいかがでしょうか。

藻谷委員： パブリックコメントを読んでびっくりしました。非常に関心が強いというのは、仙台市民の民度が高いなと思いました。そして、大筋において「せっかくだから生かしたい」という意見は一緒だった。とはいえ総論賛成ではうまく回らない対立点のようところがいくつもある。それを3つくらい挙げます。テニスコートをどうするかというのは私にはよく分からないのですが、ビジョンに触れていなかったので置いておきます。

まず、パブリックコメントを通じて、車を利用している人と歩いている人とは意見のトーンが違うなということを改めて思いました。市民としては、例えば乳母車積んで車で行って、車を停めて歩きたい、お年寄りの方がなるべく近場まで車で行って歩きたいといった需要が多いんですね。それに対して、コンベンションやコンサートに来る人は、車では処理できないし、東京から来る人のように観光客には車はない。これはけっこう重要な対立で、駐車場面積をどうするかといった対立です。どちらも立てるというのはあまりよくない。私の意見としては、もちろん車で来られるようにはするが、歩く空間を重視した方がいいということは改めて申し上げておきたい。なぜなら、やはり市民の健康づくり的にも、歩きやすい場所を作ることは非常に重要であるということ、それから、よそから来た人、特に外国から来た人は車を運転しないので、より歩きやすくするほうがよい。3つ目に、そもそも政宗の時代は歩いていたので、その頃はバリアフリーだったのでバリアフリーにはしなければいけませんが、やはりその歴史は大事にしたほうがいいかなということです。

もう一つは「自然」と「開発」。これはみんな心配していますよね。この懇話会の意見としては一致しているかと思いますが、保全されるところはちゃんと保全するということを示すということ。他方、もともとそうではなかった、開発されているところ、

例えばお城からの景観はもともと政宗は見ていたわけです。木を切るなという議論がありますが、もともと開発されていたところと、自然を自然公園としてきちっと保全して余計なことはしないところを切り分けるという姿勢を出した方が皆安心するのかな。誰も面と向かってやるなどはっていないが、少し心配している人がいるのかなと思いました。これは、事情をよくご存じの皆さんのご意見をお伺いしたいと思いますが、今までの議論だと、やはり 100 万都市の真ん中にこれだけの自然が残っているところはないので、保全しろという意見は一致していると言っていいのかなと。

3つ目ですが、もう少し面白くしたいという意見と、現状維持をしたいという意見がありますね。それぞれ微妙に分かれているんですが、15番は典型で、色々書いていますが基本的には何もするな、現状でいいと書いています。これについては、やはりせっかくやるので現状を壊さずに、かつ、もう少し歴史を生かしつつ面白くするというところに私は賛成です。観光客を呼ぶという市議会のご意見もあるが、何度も言いますが、そうではなくて、まず市民が散歩できる空間にしてたまることのできる場所にすることが大事です。そうすると自動的に観光客が来るので、観光客のためだけに何かをする必要は全くないというのが私の重ねての意見です。

余談ですが、私は今日広島から来ました。ご存じだと思いますが、広島と仙台というのは同じ大きさなのです。妻も連れて行きましたが仙台に似ているなと言っていました。成り立ちは違いますが似ています。広島はいい町で、似たような町なんです。一点違うのは原爆ドーム。仙台は大空襲ですが、皆さんあまり言わないじゃないですか。跡は消えている。広島は、広島城というお城があって、コンクリなんです。せっかく国宝だったのに原爆でなくなり、そこに新しく建てているんですが、そのエリアが公園になっていて、たくさん外国人の方がいてびっくりしました。天守閣を建てろと言っているのではなく、城跡というのは人が行くということ。私は山口県で育ったので小さいときから広島城の事は知っていますが、そんなに人が行くところではなかった。やはり城跡に人は行くんだな、と。そこから公園でずっと川伝いに原爆ドームまで全部歩けるんですね。繁華街じゃなくてそっちにけっこう人が歩いているんですね。ああ、なるほど、と。そういうわけで、よりすごい城郭である仙台城の縄張を残しているこの辺りは、たぶん皆さんが思っているよりずっとポテンシャルが大きいと改めて思いました。もう一つ余談を申し上げますと、広島城と原爆ドームの間に美術館があります。やはり文化的なものなんですね。ピカソ展をやっていて、5人に1人が外国人の方でした。日本に来て、広島に来て、わざわざピカソを見る、偶然やっていたから見たのでしょうか、やはり文化エリアというものは観光、特にインバウンド観光とはなじむんだと改めて思いました。

宮原座長： どうもありがとうございました。いま藻谷委員がおっしゃっていた、最初のテニス場の経緯について、補足でご説明お願いできますか。

公園整備課： 公園整備課の川崎と申します。青葉山庭球場については、青葉山公園整備基本計画において移転する計画ということで整備を進めることとしていますが、一方で、計画を策定した時点から、地下鉄の東西線が開業するなど、社会情勢が変化していること、また庭球場の存続の要望が多数寄せられているということもあり、その取り扱いについては、スポーツの振興の観点からも、慎重に検討する必要があると考えているところです。今後については、関係部署と調整を図りながら、移転・存続についての議論を深めて対応して参りたいと考えていますが、当面の間は、青葉山公園は段階的に整備を進

めて行くということもあり、しばらくの間は引き続き今のままお使いいただけるものと考えています。

宮原座長： ありがとうございます。

紫富田委員： 私もこのパブリックコメントを見て、皆さんものすごく熱心なことに感動しました。たとえ辛口であっても、愛するが故のコメントだったり、自分も役に立ちたいという積極的な意見があったりということで、本当に皆さんこの地区を愛しているんだなということを改めて感じました。一方で、こういうアンケートやパブリックコメントは関心があるから書くのであって、以前のアンケートであったように、今まであまり分かっていない、あまり行かないという方がたくさんいたと思うので、先ほど庄子委員がおっしゃったとおり、一回聞いて終わりではなく、これから何回かビジョンを見直すたびにパブコメをし、情報発信をする。それで少しずつ、今まであまり関心を持っていなかった、意見を言わなかった人たちも関心を持つような機会になればいいと思いました。

また、先ほど藻谷委員から車のお話があったと思いますが、観光・MICEの立場から申し上げますと、やはり今、WTO (World Tourism Organization) でも言われていますが、持続可能な観光や持続可能なMICEなどが重視されています。例えば会議に出ると、あなたはここまでどうやって来ましたか、と。海外から来られる方は飛行機を使うので、そこでCO₂を出してしまっているのも日本は目的地としてはすでにハンディがあるのです。公共交通機関で来たのか、車を使ったのか、その結果を受けてあなたは今回何点です、というチェックを行う会議もあるくらいなので、やはり公共交通機関を使う、歩いて行けるということは、すごく点数を稼げる。だからやるというわけではありませんが、今後こうした視点はすごく大事になってくると思っています。せっかく地下鉄や一ぶる仙台があるので、仙台で観光・MICEをするといったときに、持続可能という切り口でも意義があるということも魅力として打ち出せばいいのではないかと思います。

宮原座長： ありがとうございます。MICEの面から、そういうカーボンフットプリントの視点で、仙台自体に価値がある、そうした価値を付けられる手段を持っていることが大事だということですね。他にいかがでしょうか。

深澤委員： 私もこのパブリックコメントを読んで、市民の皆さんはよく分かっているんだなということが分かってよかったと思っています。また仙台市の考え方として、こんなに丁寧に一つ一つのコメントに返信をしているという誠実さには敬意を表したいと思います。ありがとうございます。大変な仕事だっただろうなと思い、これは素晴らしいことだと思いました。

この中で自然環境の配慮に関するものが5件くらい出ていますが、やはり心配というか、市民が気にしていることは、青葉山の自然、保全、再生ということだと思います。よく読めば、そういうことが分かっているし皆さんが合意しているということが分かりますが、こういう懸念が出てくるということは、逆にこのビジョンの中での不足部分の反証になっているのではないかなと気になります。前も申し上げましたが、例えば資料4の16ページで、「自然歴史」というものと「学術」などが同じ価値として使われている。本当は自然と歴史というものは無限大のプライスレスなものなので、そのプライスレスにプライスを付けようとする、そういう観光のパラダイムというものは、シフトされなければいけないのではないかと思います。シフトした考えに基づいて、プライスレスのものはプライスレスのまま無限大の基盤があるということ、よく読めば分

かと思いますが、ビジョンのプレゼンだけだと一目瞭然には伝わってこない。自然と歴史の基盤があるんだということを示すような、一目瞭然に分かるような表現にした方がいいのではないかと思います。例えば16ページの青葉山エリアの特性・価値のところで「豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア」と書いてあるにもかかわらず、矢印が下がって、エリアのコンセプトとなると、それが少し薄まって、あまりきちんと書いていないんですね。それで目指す将来像というところに、自然環境についてはどこにも書いていなくて、書いてあるのは「杜や水と暮らす都市文化」といった形になってしまっている。なので、例えばですが、「豊かな自然と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ」というように、文言を変えるだけで印象がだいぶ変わってくるのではないかと思います。そういうところで、市民に懸念させないような要素を散りばめておいたほうが、ビジョンとしては成り立つのではないかと思います。表紙のサブタイトルで、「杜の都の『歴史』と『今』と『未来』をつなぐ」というのは、2回読まないという意味が分からなかったんですが、「杜の都の『歴史』と『自然』を『未来』へつなぐ」とするとか、「杜の都の『歴史』や『自然』を『未来』へつなぐ」というように、自然をきちんと未来につないでいるんだということをサブタイトルに入れておけば、「あ、ちゃんと考えているな」ということが分かると思うので、ビジョンのプレゼンとしてはそういう工夫が必要かと思ったので、検討していただけるとありがたいと思いました。

宮原座長： 重要なご指摘、ありがとうございます。青葉山の「自然」という部分をもう少し強調していかないと、このビジョンが生きてこないかなということですね。事務局は何かコメントはありますか。

交流企画課長： 歴史と自然を大切にしていくというのは重要な視点だと我々も思っていました。それをどう表現するかということも、これまでご議論いただいてきた中で、紆余曲折あってこの文言になったということです。今、「杜の都の『歴史』や『自然』を『未来』につなぐ」というアイデアをいただき、すぐにそれをどうこうというわけではありませんが、「歴史」や「自然」というものはもとより、様々な資源がそれ以外にもたくさんある中で、「歴史」と「今」と「未来」という時間軸に落として、それをつないでいきたい、そうすることができるエリアではないかということで、この副題としたところです。

文化観光局長： 副題については、課長から申し上げたとおり、色々な意見をお聞きしながらここまで来たので、今この場ですぐお話しすることができませんが、深澤委員からお話のありました「目指す将来像」の「豊かな自然」という言葉は入れられると思います。「杜と水」に置き換えではなくプラスした方がいいのではと個人的には思っているところです。ここは一つ検討させていただければと思います。

深澤委員： どういうふうに変化してもいいと思いますが、豊かな自然ということが分かるような文言を、やはり「目指す将来像」の中に「豊かな自然と暮らす」という感じだと仙台市らしいかなと思いますのでよろしくお願いします。

宮原座長： ありがとうございます。

藻谷委員： 一言余計なことですが、私は58歳なので、「未来」という言葉のニュアンスが時によって変わったと思っています。高度経済成長期をギリギリ知っていますが、あの当時は鉄腕アトムに出てくるような、木一本ないものが未来だと思っていたというのが、私が小学校3年生までの世界です。今、「未来」と言ったときに、そういうのを想像する人と、ポケモンに出てくるように全部緑に埋まっている世界を想像する人で違います

よね。心配なのは、この「未来」というものを、鉄腕アトムの未来だと思う人が、60歳以上の人でいっぱいいるのかなというご懸念を深澤先生はおっしゃっていると思います。そのあたりのニュアンス、この中にはないと思いますが、どんどんビルを建てて開発するぞというイメージの人が実はまだけっこういる可能性もあるのか、はたまた懸念しなくてもいいのか、そこが心配なところです。

宮原座長： ありがとうございます。「未来」のイメージですね。当然パブコメの市民の皆さんは、その未来の在り様を、緑豊かな自然を残した仙台の未来と思っていると思います。人によってはそこが漠然としていると。それを念押しする形での、サブタイトルや文言を明確に付けておいたほうが、パブコメを下された方も安心するのかなという印象が私もありました。

藻谷委員： 市長と副市長は60代を馬鹿にするなどお怒りになるかもしれない。ごく一部なのかもしれませんが、色々な人たちとお付き合いしているので少し心配でした。

宮原座長： ありがとうございます。検討していただいて、ご提案いただいた点に対して修正可能なところは修正していただき、このビジョンの思うところがしっかり伝わるような言葉を最後入れていただくとありがたいと思いました。

私から一つお願いしたいのですが、資料4の7ページの年表で今回赤字で追加していただき、また違う青葉山の歴史が浮かび上がったなど大変参考になりました。せつかく5ページのところに少しスペースがあるので、「(2) 明治期から戦後の青葉山エリア」のところに、この2つに関して本文の中でも少し触れていただいたほうが、年表にきちんと反映されているというふうに見えるのではないかと思います。米軍の駐屯地は書かれていますが、緊急開拓委託事業地区や追廻地区の応急簡易住宅の建設についても、こちらのストーリーにも書くといいかと思いました。参考にしてください。

それから、今回青葉山エリアを観光交流でも活性化していこうということですが、一方で市民の方たちの中には、オーバーツーリズムであるとか、あまり賑わい過ぎてゆったりとした落ち着いた空間がなくなってしまうのではないかという意見も一方であります。これは対立するような軸です。それを解決するかどうかは別にして、色んな用途で青葉山エリアを使ったり利用したり、楽しむことになると思うので、こちらのビジョンの最後の方に、例えばサイン計画のことや、市民の散歩するルート、観光客が辿っていくところの歴史や良さがしっかり分かるといった、そうしたものをしっかりと立てていきながら、市民と観光客の動線を整理する。混ぜてももちろんいいんですが、少なくとも「観光客ばかりいて」といった風景だけが出てこないような、そういう市民の憩いの場への配慮を考えていただきたいと思います。このビジョンに書かれていなくてもいいのかもしれませんが、最終的にはそういったことも整備して欲しいというのが私の希望です。

高山委員： パブリックコメントを見ていて、テニスコートについてのご意見がけっこうあるなと思いました。パブリックコメントの回答の資料がホームページにアップされますが、このビジョンに何も書かれないというのもどうかと感じました。10年後を見据えたビジョンなので、10年後であれば多分あのまま残るのでしょうから、その安心感を与えるという意味で、どこかに触れることは可能なのかなと思いました。

あとは議会でもコメントがありましたし、中にも少しありましたが、この青葉山エリアに飲食店、ショッピングセンター、商業施設がたくさん開発されるというのは少し違うなと思っていて、やはり都心と青葉山エリアが補完し合うという意味で、そうい

う機能は都心に求めればよく、青葉山に来た方は、青葉山で完結するのではなく、都心に流れて、飲食の部分など補えないところを都心部で補っていただくとか、買い物とか消費につなげていただくとか、そういった、ここに何でも集約させるというのはちょっと違うと思います。ビジョンにはそうした部分は描かれていると思うので、そこがしっかり守られればいいかなと感じた次第です。

姥浦委員： 聞こえなかったところがあったのでずれているかもしれませんが、先ほどタイトルの話で、豊かな自然環境を強調する部分については私も賛成です。ただ、このビジョンはそもそも何のために作っているか、どういう根本的な考えがあるかという点、自然を守る、草木一本切ってはいけないという話ではなく、一方で高山委員がおっしゃったように、商業施設ばかりの、木を切ってしまうって開発をするのかという点とそうでもない。環境の持続可能性を保ちつつ、一方で我々の生活を豊かにするためにどう上手く使っていくのか、そのバランスをどうとっていくのか、それらを両立させながらこれからやっていきたいと思いますという意気込みを示す、そういうものとした時に、そのタイトルというのはそれを示すものである必要があるなという気がしました。これが1つ目です。

2つ目は細かい話ですが、テニスコートについての話も出ていたように聞こえたのですが、テニスコートに対する市の回答が少し逃げているというか、ゴニョゴニョとなっているというか。ゴニョゴニョとならなければいけないのはよく分かるので、今後慎重に検討いたします、ではダメなのかなというところではあります。せめて、今後慎重に検討してまいります、少なくともこれから10年間位は大丈夫ですよ、とそういう書き方が素直という気がしました。

3つ目、これも細かい話なのですが、資料4の19ページ「エリア内の回遊性の向上」というところで、「快適な歩行環境の整備」というのがありますが、これについてはこれでよいと思うのですが、この辺りに限らず人に歩いてもらうために重要なことは「歩かされていると思わない」ということが重要だと思います。なので、常に何かものがあるとか、風景が見えるとか、そういうものがあると。ショッピングの場合もそうですよね。今後、施設を整備する時には、単にバリアフリーの単調な道を整備すればいいという話でなく、そこを本当に歩いてもらうためには、色んな変化に富んだ歩行環境が重要になってくるのかなと思います。そういう一言も入れていただくと、今後この部分を開発しようというときにビジョンを読んだときに、これをちょっと考えなきゃなということ思い出していただければいいのかなという気がしました。

榎原座長代理： パブコメに対する丁寧な回答、事務局に頭が下がる思いです。私も大きな方向としてはこのまま進めていただくということでよいと思います。私も3点ありますが、今後に向けてということで理解していただければと思います。

1つ目は、やはりまず青葉山エリアを皆さんに知ってもらうということ。青葉山エリア自体に皆さん馴染みがないので、対外的にというよりは、市民の方に知ってもらうような形で、しつこく毎年のように何かやって、10年後には3割位の方が何か知っていると、5割位の方が青葉山エリアという言葉が日常で使っていると、そういう状況を目指してみようかというのが1点目です。

2つ目は、回遊性が一番のキーになっていると思っています。懇話会の最初の市長の動画でも回遊性ということが強調されていたということがあって、それが資料4の19ページに書かれています。その成果がどう出ているかというのを、毎年でも2年に一回でもいいんですが、回遊性の施策を展開することでどういう変化があるのかを検

証できるようなことを、この10年かけてやっていくこと。人が多く来ればいいのかという議論はあるのですが、定量的な部分と定性的な部分で、この回遊性の向上をどう重要視して、それが市民の方やいらっしゃる方にどう影響を及ぼしているのかというのを是非検証して欲しいなということが2点目です。

3点目は庄子委員もおっしゃっていましたが、市民との関わりは引続きずっと持って欲しいなということ。市民が関わり続けてもらうために、シンポジウムはありましたが、もっと違った形で、市民が主体的に関われるような何かが青葉山エリアでできると、足を運んでもらう機会を増やすということとセットで認知してもらえ。10年後となるとうちの娘も20歳になることを今イメージしてしまいましたが、その時にうちの娘が「青葉山ってああだよ」って言えるようになっていっていると、これが浸透していくのかなと思ったので、市民の関わりというか、どう来てもらうかという仕掛けを、最初は一生懸命やっていく必要があるのではないかと考えておりました。青葉山公園・仙臺緑彩館はその一翼を担うので私も鋭意頑張りたいと考えております。大切なエリアだからこそ、やりっぱなし書きっぱなしで終わらないようなことを是非して欲しいなということなんです。

深澤委員： 今のご意見とも関係すると思いますが、午後7時以後とか11時とか、そういう時間帯は国際センターも閉まっていますし、あの辺りは真っ暗なんですよね。食料とか、飲食のことにしても、例えば国際センターの中にコンビニが入れるのかは分かりませんが、そういった購買施設があって、11時位まで開いているとすると、そこはまた人が来る範囲になるので、そういった社会システム、運用システムの改善を見直すだけで、色んなことをやらなくても今すでに動いていることだと思います。青葉山に来る人というのは、朝早くか夜遅くか。昼間は観光客が来るかもしれませんが、散歩の人とかは朝早くか夕方になりますので、今話している時間帯の範囲ではないところに人がたくさん来ているものですから、その辺を考えれば、こういうことを考えなくても、既に動いているんだろうなと私は理解しています。

藻谷委員： パブリックコメントの中に、足元照明を付けたらどうかというのがありました。最近シンガポールではLEDの暖色系のあまり明るくないホワットついているような、足元だけ道沿いをポツポツと照らすような照明がものすごく増えていて、世界遺産の植物園が典型です。世界遺産といっても自然遺産でなく文化遺産です。24時間歩けるんですが、治安がいいので女の一人一人で夜の12時まで歩いたりしています。それができるのも、下にライトがほんのりついているからです。そういう感じのものは、場所によりますが、お城の跡にはあってもいいのかな、と。ホテルが出るところとかではなく。そうすると夜景を見に行く人がより安全に見に行けるだろうなと。今後の検討で予算次第ですが、考えられたらいいと思います。余談ですが、広島は全然ダメでして、原爆ドームは照らしているんですが、川の護岸は石で、しかも草が垂れていて綺麗なんです。ほとんどライトアップはしていないんですね。夜間電力は余っているので、少しやるだけでも雰囲気が変わります。広島がやる前に仙台で、一部でいいのでやって欲しいな、と。

紫富田委員： 1回目の懇話会でも申し上げたと思いますが、色々なアイデアがあってそれを推進していくときに、色々な切り口がある。例えば市の関係の方もたくさんの部署の方がおられる。資料4の30ページにも、「本市における推進体制」として組織横断的に推進しますと書いてあるし、その下には、「エリア関係機関、団体等との連携」となって

いますが、「連帯責任、無責任」みたいになってしまうと困るので、やはり我が事として中心となってやる核となる組織というものが需要だと思います。色々な組織から来た方の共同体でもいいと思います。青葉山エリアをずっと考えるDMO、「DMO青葉山」でもいいと思いますが、その人は自分の所属の組織の利益も背負っているんだけど、青葉山が上手くいくことを第一に考える人達で推進していくということをやらないと難しいのではないかなという気がします。実際、私が今関わっているもので、東京駅の周辺で大きな医学会をやるんですが、それに合わせて市民向けの博覧会を開催します。いわゆる「大丸有」と呼ばれる地域全体で回遊型の博覧会をやりましょうというのですが、それを実行するためには色々な関係者の協力が必要です。そこで「大丸有」のDMOの方々に協力いただいて一緒に準備をしているところです。このようにDMO青葉山みたいなものを作るというのは今後検討していただければと思います。

宮原座長： ありがとうございます。ビジョンのところに埋め込んで書くというのは難しいのでしょうか。

高島次長： 今、紫富田委員からありました、1回目の時もそうでしたが、観光とMICEという面から、特にMICE、コンベンションの関係については、エリア全体でそれぞれ運営主体が違う施設、国際センターで会議をして、仙臺緑彩館でレセプションをすると。そういったイメージ図を付けていますが、様々な主体が一体となって連携をしながらエリア全体のMICE環境を良くしていく。それから観光エリアとして磨き上げていく。回遊性は一つの主体では無理で、仙台市だけでも無理なので、あるいは新しい交通の運営主体を探してくるといったことも必要です。その辺りも視野に入れて、今の時点ではっきり書けるかということはあるんですが、仙台市の外郭組織である仙台観光国際協会がすでにDMOの候補段階の申請をしています。できるだけ早く、仙台観光国際協会が登録DMOになって、このエリアは仙台の観光の中心なので、様々な主体を巻き込んで調整ができるシステムといったものを我々は考えております。

高山委員： これは賛否両論あって、ビジョンに書き込んで下さいといった意味ではないのですが、元宮城大学学長の平川先生が大手門復元を契機に、仙台駅からアーケードを歩いて大手町まで、「大手門通り」という名称を付けよう、と。そうすると観光客の皆さんもそこをずっと真っ直ぐ歩いて行けば大手門に通じることが直感的に理解でき、そうすると「歩こうかな」という気持ちになると思われる。歩けば沿道店舗での消費にもつながる。そうした名称を付けようとなると、利害関係者がいるので賛否があると思いますが、費用も掛からないので一つ回遊性向上に資するいいアイデアかなと思いましたので、ご紹介だけさせていただきました。

深澤委員： 登城路は真っ直ぐではなく角になっています。今つながっている道は、軍が入ってから整備された道路ですから、それがお城と大手門と今後どういうふうにつながるのかというのは疑問かなと思います。

宮原座長： ありがとうございます。色々なご意見があって、やはり都心と青葉山エリアとをつないでいく、青葉山エリアだけの議論ではなくて全体の議論にしていく、というのが委員の皆さんからもたくさんご意見をいただいたところかと思えます。

庄子委員： 今の皆さんの議論を聞いて一つ思ったのは、パブリックコメントもそうですが、自然 VS 開発や、車 VS 徒歩といった、どうしても二項対立で捉えられているものが、このビジョンのコンセプトを作るときに、二項対立ではないんだということ。それぞれで考えて、二項対立ではなくて、項目としては最初に二項対立を打ち出すんですが、そ

うではなくてこういう意見になりました、というものが一枚あると、我々がバランスを取りながら、自然環境を大事にしながらも創造的なものを創りあげて楽しんでいきます、ということが伝わるのではないかなと思いました。

榊原座長代理： ビジョンは仙台市が作るものなので、委員のメンバーからの意見、議論した内容を参考資料として付けるような、そんなイメージでしょうか。

庄子委員： この最終案だけが出てくると、自分で解釈しなければいけないんですけど、どうしてこの案が作られたかというプロセスが見えると、何を大事にしている、二項対立ではないということが伝わるのではないかと。

宮原座長： 懇話会の委員の皆様との意見交換のエッセンスを参考資料として加えてもらったらどうかということですね。コンセプトの理解をしっかりと深めていくためにということでご提案をいただきました。今すぐということではないと思うのですが、いかがでしょうか。それもありがたなというふうに思います。

高島次長： 本当に様々な角度からご意見をいただいたので、そこからエッセンスを抜き出すというのが、ある特定の意見だけを抜き出すというわけにもいきませんし、バランスというものも大事ですので、また、1枚という分量の中で技術的に可能かどうかということを含めて検討をしてみたいと思います。今おっしゃった二項対立ではなくバランスを、ということが持続可能というキーワードにもつながってくるので、そういった大事なものをチョイスして、これは紹介できるよねと。実際にどういう紙面構成になるかも含めて検討させていただければと思います。

宮原座長： ありがとうございます。委員名簿が最終案の43ページにあるので、委員名簿の表を縮めて、「懇話会委員からのメッセージ」を作って、そこにいくつか言葉を書いてもらえばいいかなと思います。他によろしいでしょうか。

藻谷委員： 些末なことですが、かつ、あまり問題がないことですが、ご提案です。この最終案の8ページ、9ページのコラムの書き方ですが、もう少しだけ色を付けたらどうかという話です。どういうことかという、得てしてコラムの方ばかり読む人も多いですから、ここは書き所です。やはり仙台の人は遠慮がちに書くんですね。もう少し「これ、すごいぞ」と書いた方がいい。榊原委員がシンポジウムでおっしゃっていたことの本質が書ける場なので。つまり、なぜここに青葉山が残っているのかということについてですね。仙台の人も知らないと思うので、これを読めばそれが分かるように。都心がビジネス・商業中心と、自然が残った文化センターが、二眼レフで、双子で残っているという、非常に珍しい都市構造に仙台はなっているということをおぼろしく自慢すればいいと思うんですね。それがこうなったのはこうだと分かるように書いたらいいと思います。そこは広島、福岡、東京とは違うところですから。それがなぜそうになったのか、広瀬川がここにあって初めて、次に青葉山だと思えます。つまり広瀬川を境に町を全く別に造ると政宗公が考えた、設計思想上そうだったからだと思うんですよ。その設計思想は、青葉山は防御中心、当時から自然を保護してやる、と。江戸時代を通じて自然が保護されて、防御中心で自然を残しながら一部景色を楽しむというコンセプトで作られていました。それが軍施設になり、一部開拓したけれども、どいて下さって、それをきちんと守って今日に至っているという、そういうことを書かないと、「大都市近郊にこういうものがあることは極めて貴重な」と書いているが、「なぜ」ということが書いていない。単に仙台の人は何も知らなかったからみたいな書き方は失礼だと思うんですよ。意図的にそれを守った、だから他の町にはこれがないということ、それ

がなぜ貴重なのか、それは政宗公が縄張をしてきちんところとしたからだ、前の方には書いてあるが、コラムを読んだだけで分かるように書かないと。私が書いてもいいんですけど。他方で広瀬川の方で大事なものは、川の東側は、政宗公ははっきりと商業地として栄えさせようと考えて、ここに書いてあるとおり、四ツ谷用水を引くことにより、普通だと人が住めない丘の上をきちんと町として開発した。今でも仙台は東側が非常に栄えていて、ビジネス・商業の中心地で、西側にはきれいに自然が残っている。これはそもそも最初のシティプランのとおりを守ってきたわけで、こんな町は他にありません、と。四ツ谷用水が本市の発展に寄与した、河岸段丘上に市街地が発達したのが特徴でありと書いてあるが、これではだめなんです。このことによって、本市は日本の主要都市で唯一、地盤の緩い町ではなく、地盤のしっかりとした丘の上に市街地が発達した町になりました、というふうに書くべきだと思います。その結果、度重なる震災などに対しても関東大震災みたいな悲惨な被害は起きませんとまでは書けないのかな。津波被災地の方のことを考えたらこうは書けないのかもしれませんが。市街地都心部が非常に地盤が固くて、色々な災害に強い町の構造になっているぐらいのことは書いてもいいのかなと思います。こういう町は盛岡と仙台だけです。広島はいい町ですが、やはり住めないんです。地盤が明らかに緩いですから。やはり真面目に考えたら仙台以外に安心して住める町はないです。そこまで書かなくてもいいですが。しかし、それができるのも丘の上に用水を引いて開発するというビジョンを持っていたからです。他の町は舟で簡単に行ける、掘割で船で荷物が着けられるところに安易に町を造ってしまったわけです。仙台はそうではないということをこのコラムで分かるように書いて欲しいということです。

宮原座長： いま榊原委員からご提案があるそうです。

榊原座長代理： 藻谷さんコラムを、15 ページが空いていますので、そこに是非。

藻谷委員： 専門家ではないので。二眼レフになっていて、この両方にメリハリを付けるのは大事だということを書く。

榊原座長代理： 仙台市には書きにくいと思うので、藻谷さん視点で書き込んでしまうくらいの方が。

藻谷委員： ここで聞きかじったことを言っているだけなので。ある程度書き込むことによって、ベタっと同じように開発するんじゃないということが明確に出るじゃないですか。

宮原座長： 前も言いましたが、私も東京から来たので、藻谷さんの考え方にとっても共感しています。政宗公の歴史の評価というのが、仙台市民にとってさっぱりしているというか、いま藻谷さんがおっしゃった暮らしの土台が、政宗公の色々な思いや土地の使い方もあって、私たちに色々なものが残されている。そのところのつながりがあまり書かれていない。青葉山というのはある種、政宗公の色々な考え方を表している場所の一つでもあると思うので、そういったものをメッセージとして言えるチャンスなのかなと思うんですね、このビジョンに関していうと。今まで他のところの委員会でもあまりその辺りを意識したようなものというのはないんですよ。よその私たちから見れば、日本で大変有名な戦国武将で仙台の礎を作ったというファウンダーの思想が、杜の都・仙台に今あるのですが、それを当たり前だと思って享受したまま使っているというところが冷たくないかなと思ったりします。

このビジョンでも十分触れられてはいますので、そして大事にしたこれからの将来像も書かれているので、それは全く問題ないんですが、できれば藻谷さんから、外の目から見た価値のようなところを書いてもらえれば。

藻谷委員： 郷土史家が見て怒るようなことを書面に書くのは少しどうかと思います。都市の比較の中でいかに仙台が特殊な町かということを書くことはできます。

宮原座長： そういう形でいいんじゃないでしょうか。仙台の都市としての面白さ、ないしはその大切さ。

高島次長： 先ほど委員からのメッセージになるのか、懇話会での主な意見になるのか、1枚追加してそこで主だった意見を紹介したらどうかという話がありましたが、おそらくその中で藻谷委員がおっしゃった、仙台は貴重だ、もう少しそれを認識すべきだ、という文脈であれば書けるのかなという話を局長としていました。

宮原座長： 工夫していただいて。せっかく色々な人が話し合いをしましたし、仙台市民の方々のものすごく熱い思いという部分を私たちは受け取ってビジョンを作りましたというところは、是非伝えていって欲しいなと思うし、大事にしていきたいと思います。

それではそろそろ時間になりましたけれども、いかがでしょうか。それでは今回の議論についてはこれで終了いたします。

事務局から何かございますか。

交流企画課長： 特にございません。

宮原座長： それでは以上をもちまして議事はすべて終了いたしました。本日も委員の皆様からは活発なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。終わりの懇話会とは思えないような、色々な、課題ではありませんが、よりよくするためのご提案をたくさんいただいたというふうに思っております。進行にご協力いただきましてありがとうございました。では進行を事務局にお返しいたします。

3 その他

4 閉会

文化観光局長： 本日も活発にご議論いただきありがとうございました。思い起こせば昨年8月に第1回懇話会を開催してから、皆様方に毎回真摯に議論いただき、感謝申し上げます。この間ずっとコロナ禍でしたが、人との接触を制限された生活を送る中で、逆に人と人との触れ合いの大切さを改めて感じており、議論にもありましたが、青葉山エリアは、歴史、自然、文化的な様々な背景と、エリアの広さ、それから各種の施設を含め、様々な楽しみ方ができる場所です。多くの方が自分の楽しみを見つけるためにお越しいただいて、その中で同じ楽しみに来た人との触れ合い、それから他の楽しみをしている方との触れ合い、そういうものを通じた交流を深めていっていただき、集まった皆さんがその人生を豊かに過ごしていただく、そういう場所になるといいと思っております。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

以上、議事等の記録内容につきまして、すべて相違はありません。

令和 5 年 5 月 18 日

議事録署名者

宮原育子

柳原進
